

評価・検証の結果

都市づくりの方針		マスタープランにおける評価指標の例	今回設定した指標	改定時	現時点	進捗状況*		
活力	① ヒト・モノ・カネの広域的な循環を生み出す求心力のある都心の形成	都心の歩行者交通量の推移	都心の軌道系交通の乗降者数（JR広島駅及びアストラムライン本通駅・県庁前駅）	10万6,714人/日 (平成25年度)	11万4,752人/日 (平成30年度)	○	広島駅周辺地区における陸の玄関にふさわしいまちづくりや、JRとアストラムラインとが結節する新白島駅の整備などの交通環境の整備を進めることにより、都心の歩行者交通量が増加するとともに、二葉の里地区や広島大学本部跡地において、大規模未利用地の活用が進むなど、順調に推移している。	
		大規模未利用地の活用状況	大規模未利用地（二葉の里地区等4地区〔66.1ha〕）の活用面積	10.2ha (平成25年度)	18.8ha (平成30年度)	○		
		市民の満足度	都心の交通環境に満足している市民の割合	39.7% (平成25年度)	40.3% (平成29年度)	○		
	② 企業活動を活性化し、地域経済の持続的な発展を支える都市づくり	製造品出荷額などの推移	製造品出荷額等	2兆3,693億円 (平成25年)	3兆1,667億円 (平成30年)	○		中小企業の振興などにより、製造品出荷額等が増加するとともに、企業立地促進補助制度を活用し、西風新都を始め市域への企業誘致を進めるなど、順調に推移している。
		企業の立地状況	企業立地促進補助事業の補助指定件数	34件 (平成19～24年度)	86件 (平成25～30年度)	○		
	③ 既存ストックを活用した効率的・効果的な都市経営	都市施設の長寿命化の状況	下水道管路改築延長	8km (平成27年度)	47km (平成30年度)	○		公共施設等総合管理計画や同計画に基づく個別施設計画を策定し、これらに基づき、下水道管路や基町市営住宅等の効率的・効果的な維持保全を進めるとともに、未利用地の売却等を積極的に進めるなど、順調に推移している。
		市営住宅の改善等の状況	基町市営住宅（高層棟）の住戸の全面的改善率	52.2% (平成25年度)	86.3% (平成30年度)	○		
		未利用施設等の活用の状況	未利用地等の売却等の達成率（広島市行政改革計画（平成26年度～平成30年度）の目標収入額〔40億円〕の達成率）	64.5% (平成26年度)	175.8% (平成30年度)	○		
	魅力	④ 広島ならではの資源を活用した都市づくり ⑤ おもてなしの心があふれ、「また来てみたい」「住んでみたい」と思える都市づくり	観光客数等の推移	入込観光客数	1,151万3千人 (平成25年)	1,336万2千人 (平成30年)		○
市民の満足度			再訪希望の観光客の割合	99.01% (平成25年)	99.58% (平成30年)	○		
⑥ 美しく品があり、人々に“広島”を印象づけることができる都市景観の創出		市民等による自発的な景観まちづくり活動の状況	ひろしま街づくりデザイン賞（活動部門）の応募件数	31件 (平成19～24年度)	51件 (平成25～30年度)	○	広島市景観計画を策定し、景観に対する市民意識の高揚や民間建築物等の景観誘導、景観に配慮した公共施設の整備などを進め、広島市の景観を美しいと思う市民の割合も高い割合で維持できていることなど、順調に推移している。	
		公共施設のデザイン向上の状況	広島市都市デザインアドバイザー会議における協議件数	7件 (平成19～24年度)	9件 (平成25～30年度)	○		
		市民の満足度	広島市の景観を美しいと思う市民の割合	75.5% (平成25年度)	74.9% (平成30年度)	△		
快適性		⑦ 子どもから高齢者まで、誰もが快適に暮らせるまちづくり	バリアフリー化の状況	公共施設の福祉環境整備率	73.7% (平成25年度)	84.4% (平成30年度)	○	公共施設の福祉環境整備や上下水道等の整備を計画的に進めるとともに、広島市が暮らしやすいまちだと思える市民の割合も高い割合で維持できていることなど、順調に推移している。
	下水道の整備状況		汚水処理人口普及率	94.9% (平成25年度)	96.6% (平成30年度)	○		
	市民の満足度		広島市が暮らしやすいまちだと思える市民の割合	87.2% (平成25年度)	84.8% (平成30年度)	△		
	⑧ 環境への負荷が少ないスマートな都市づくり	温室効果ガス排出量の推移	温室効果ガス排出量	879万6千トンのCO <sub>2</sub> (平成25年度)	776万2千トンのCO <sub>2</sub> 〔速報値〕 (平成30年度)	○	公園緑地の整備等による温室効果ガス吸収源の拡大や、公共交通の利用促進等による環境にやさしい交通手段への転換などを進め、温室効果ガス排出量も減少していることなど、順調に推移している。	
		公園緑地の面積の推移	公園緑地の面積	958.52ha (平成25年度)	985.22ha (平成30年度)	○		
		公共交通機関の利用者数の推移	公共交通の利用者数	56万8千人/日 (平成25年度)	59万9千人/日 (平成30年度)	○		
	⑨ 災害に強く犯罪や事故が起こりにくい、安全・安心な都市づくり	公共施設の耐震化率の推移	防災拠点となる市有建築物の耐震化率	68.5% (平成25年度)	87.9% (平成30年度)	○	市有建築物の耐震化や広域避難路の整備などにより、災害に強い都市づくりを進めるとともに、市民の日常生活の安全や安心の確保を図るための積極的な取組を展開することにより、交通事故件数や刑法犯認知件数も減少していることなど、順調に推移している。	
		広域避難路の整備率の推移	広域避難路の整備率	79.6% (平成25年度)	81.4% (平成30年度)	○		
		交通事故件数等の推移	交通事故件数	5,903件 (平成25年)	3,353件 (平成30年)	○		
刑法犯罪認知件数の推移		刑法犯認知件数	10,472件 (平成25年)	6,859件 (平成30年)	○			

※ 「進捗状況」の欄：○・・・方針に沿って進捗している △・・・方針に沿っておおむね進捗している